

## 目次

## 第一部

地球で生きるための新しい倫理を模索しよう—序に代えて	木村 光伸	5
<b>I 〈3.11〉後—人間関係を問い直す</b>		
人間の絆の根底を考える—大災害（3.11）を背景にして	岩田 靖夫	10
人間関係の学	渡邊 毅	19
〈自己家畜化〉の論理から人間関係のあり方を問う II	穴見 慎一	23
一言語の視点の位置づけを廻って		
人間を問うことの現代的意味	片山 善博	35
<b>II 〈3.11〉後—環境が編み出す人間関係</b>		
3.11 震災復興が問う人間・社会・未来	古沢 広祐	40
—伝統文化の力，地域再編・漁業復興をめぐる相克		
: 持続可能な社会を考えるために		
中山間地域の地域復興	杉山 光信	52
記憶と記録	吉田 健彦	59
—現代情報メディアにおける他者の可能性について		
来たるべき社会のための覚え書—〈存在の連鎖〉の持つ意味	木下 康光	69
<b>III 〈3.11〉後—人間関係の危機 - 疎外感に立ち向かう</b>		
イジメ共同体をいかにのりこえるか	清 真人	76
—基礎経験をめぐるヘゲモニー闘争の観点から		
子どもと青年，家族が遭遇した複合災害	横湯 園子	85
—語ること・語らないこと，聴くことの意味		
<b>IV 〈3.11〉後—海外の受けとめかたと「脱原発」の課題</b>		

韓国で受けとめた〈3.11〉	水野 邦彦	92
ドイツにおけるエネルギー転換—その問題点と展望	ミヒャエル・イエーガー	98
	(真鍋 正紀訳)	

## 第二部

### 巻頭論文

総合人間学と私	堀尾 輝久	115
人間とは何か その総合的認識をもとめて		

### 論壇エッセイ

脳から考える総合的な人間学	河野 貴美子	124
学習における当事者性を育むには	武田 富美子	130
近代日本の知識人と民衆	吉田 傑俊	138
「近代日本思想論」三部作を終えて		

### \*海外特別寄稿

人間の文化的生活に対する発展倫理の影響	郭 玲玲	143
	(布施 元訳)	

### 一般研究論文

倫理的な存在としての人間の社会的基盤	大倉 茂	150
倫理的にふるまうために		
刑罰として死刑は許されるか—存置論者の論拠の検討	菅原 由香	160
うたとことばからヒトの進化を考える	下地 秀樹	171
過疎地域における神社神道の変容	冬月 律	182
—高知県高岡支部の過疎地帯神社実態調査を事例に		
環境化する現代情報技術と現実の変容	吉田 健彦	197
—現実／仮想の二元論的情報観を超えて		

---

**告若手研究者奨励賞発表にあたって**

## 若手研究者奨励賞受賞論文

- |  |       |     |
|--|-------|-----|
| 「自己家畜化論」から「総合人間学的本性論・文明論」へ<br>小原秀雄「自己家畜化論」の再検討と総合人間学的理論構<br>築のための一試論 | 上柿 崇英 | 213 |
| 現代社会の〈共〉に関する人間学的考察<br>— 〈共〉の構想性と倫理性に触れて                              | 布施 元  | 226 |

**投稿エッセイ**

- |  |       |     |
|--|-------|-----|
| 個人を救える宗教が何故人類を救えないのか<br>— 「21世紀型の宗教改革」の必要性 | 道正 洋三 | 236 |
|--|-------|-----|

**第8回研究大会若手シンポジウム報告：〈老い〉を考える—近代化・自立・尊厳**

- |                                      |       |     |
|--------------------------------------|-------|-----|
| 〈老い〉への考察をとおしてみえてきたオルタナティブな未来         | 澤 佳成  | 241 |
| 尊厳死について                              | 近藤 弘美 | 245 |
| 人間にとっての〈語り〉の根源性—年を重ねた者と〈語り〉<br>の場の生成 | 高橋 在也 | 251 |
| 現代社会における〈老い〉<br>近代化と人間の商品化の視点から      | 大倉 茂  | 261 |
| 会員による著書紹介                            |       | 269 |
| 『総合人間学』バックナンバー                       |       | 273 |
| 学会会則                                 |       | 276 |
| 投稿規定・執筆要綱                            |       | 279 |

- |      |       |     |
|------|-------|-----|
| あとがき | 宮坂 瑠子 | 286 |
|------|-------|-----|